

「ESGに関する意識調査」結果報告

一般財団法人 経済広報センター

近年、企業が持続的に成長していくためには、売上・利益など財務的な評価だけでなくESGと呼ばれる環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の非財務的な3つの観点も重要であるという考え方が世界的に広まってきています。また、企業の株式・社債を中心とした金融市場においても、投資と持続可能性（サステナビリティ）が結び付いた「ESG投資」への関心が急速に高まっています。

こうした状況を踏まえ経済広報センターでは、生活者がESGの考え方やESGと企業との関わりをどのように捉えているかについて調査し、その結果を取りまとめました。

【調査の概要】

- ・ 調査対象：2,745人
- ・ 調査方法：インターネットによる回答選択方式および自由記述方式
- ・ 調査期間：2020年6月4日～6月15日
- ・ 有効回答：1,449人（52.8%）
- ・ 回答者の属性：
 - 男女別：男性（628人、43.3%）、女性（821人、56.7%）
 - 世代別：29歳以下（21人、1.4%）、30歳代（123人、8.5%）、40歳代（193人、13.3%）、50歳代（418人、28.8%）、60歳代（361人、24.9%）、70歳以上（333人、23.0%）
 - 職業別：会社員・団体職員・公務員（592人、40.9%）、会社役員・団体役員（70人、4.8%）、自営業・自由業（112人、7.7%）、パートタイム・アルバイト（170人、11.7%）、専業主婦・夫（259人、17.9%）、学生（7人、0.5%）、無職・その他（239人、16.5%）

【結果の概要】

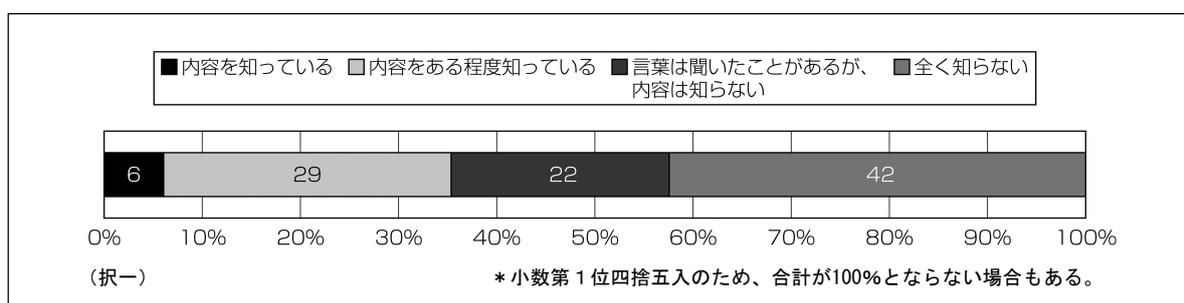
1. ESGの認知度

ESGを知っている生活者は35%

ESGについて、「内容を知っている」(6%)、「内容をある程度知っている」(29%)を合わせると、「知っている」は35%。「言葉は聞いたことがある」(22%)を含めると57%となり、生活者の半数以上がESGという言葉を知っていることが分かる。

(図1)

図1 ESGの認知度



※回答者に、以下の内容を表示し、調査した。

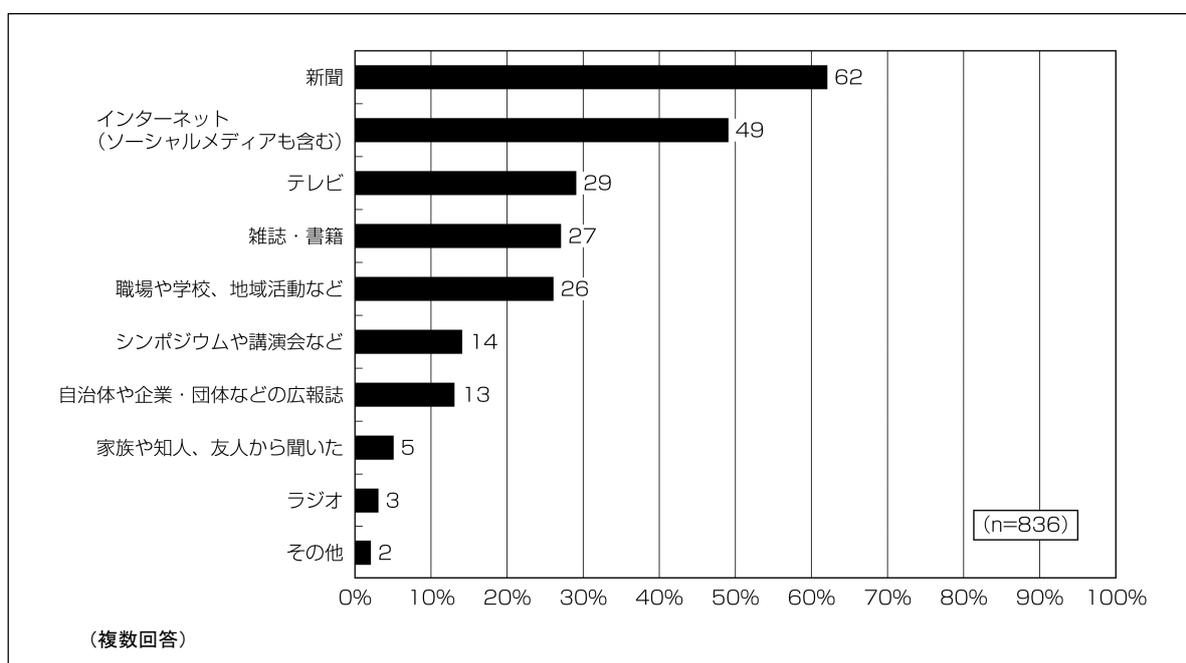
皆さまはESGという言葉をご存じでしょうか。これは、環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の頭文字を取ったものです。近年、企業が持続的に成長していくためには、売上・利益など財務的な評価だけではなくE・S・Gに象徴される非財務的な3つの観点も重要であるという考え方が世界的に広まってきています。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴いE (Environment 環境) をはじめとするESGへの注目が集まる中、企業の株式・社債の取引を中心とした金融市場においても投資とサステナビリティが結び付いた「ESG投資」への関心も急速に高まっています。

2. ESGの情報源

ESGを知ったきっかけは、「新聞」「インターネット」が多数

ESGの認知度（図1）で「内容を知っている」「内容をある程度知っている」「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」と回答した人（57%）にESGを知ったきっかけを聞いたところ、「新聞」（62%）が最も多く、次いで「インターネット（ソーシャルメディアも含む）」（49%）となっている。以下「テレビ」（29%）、「雑誌・書籍」（27%）、「職場や学校、地域活動など」（26%）と続いている。（図2）

図2 ESGの情報源

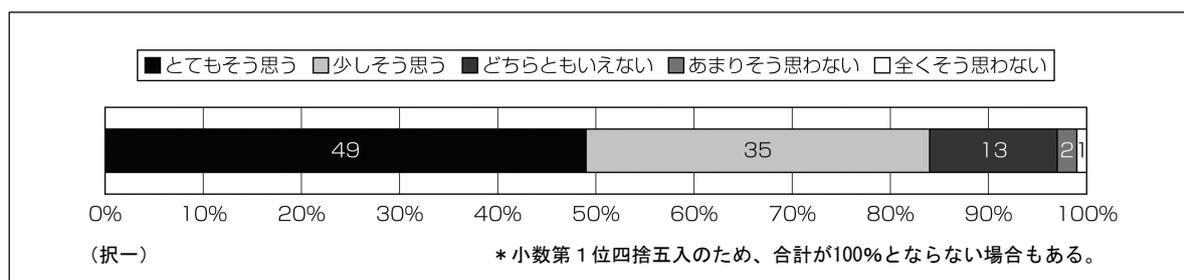


3. 企業のESGへの取り組み

生活者の8割以上が企業に対して積極的なESGへの取り組みを期待

企業はESGに積極的に取り組むべきか聞いたところ、「とてもそう思う」が49%、「少しそう思う」が35%となり、生活者の8割以上（84%）が積極的なESGへの取り組みを企業に期待していることが分かる。（図3）

図3 企業のESGへの取り組み



「そう思う（とても／少し）」理由

- ◇21世紀のあるべき姿を考えると、企業は今後ますますESGを重視せざるを得なくなると思うから
- ◇良くも悪くも企業の経済活動が及ぼす影響は大きいから
- ◇ESGに取り組まなければ、企業の長期的な存続は難しいから
- ◇企業のESGへの取り組みは、自社の持続的成長にとどまらず社会全体のサステナビリティにとって重要だと考えるから
- ◇世界規模で見ると、ESGにきちんと取り組んでいる会社の方が業績も株価も優れているから
- ◇社会の持続なしでは、社会の一員である企業も持続し得ない。その社会を維持するためには、企業のESGの取り組みも必要だと思うから

「そう思わない（あまり／全く）」理由

- ◇企業が利益を追求するに当たっては、きれい事ばかり言っていられないと思うから
- ◇従業員一人ひとりにまでESGの考えを浸透させるのは難しいから
- ◇以前からある取り組みをESGという言葉で言い換えただけにすぎず、従来以上になんらか取り組みを強化する必要性を感じないため
- ◇頭文字で分かりにくいイメージがあり、はやりだから取り組もうという印象を受けるから
- ◇利益追求を目的とする民間企業がESGを過剰に意識することは、投資機会の喪失

失につながり逸失利益やイノベーション機会の減少を招きかねないと考えるから

「どちらともいえない」理由

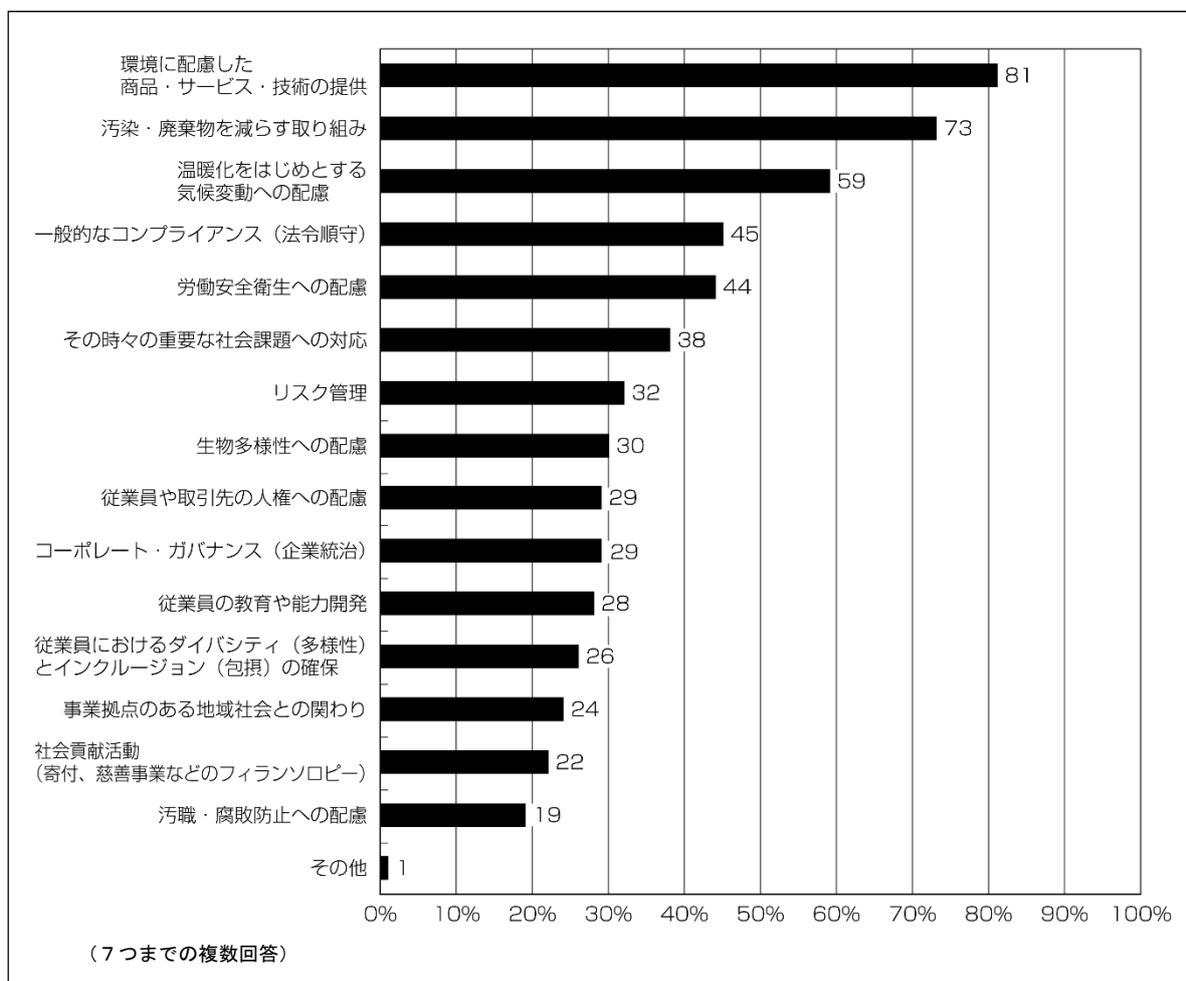
- ◇環境や社会などE S Gの範囲が広過ぎて内容が曖昧。E S Gをもっと具体的な概念にしないとゴールも効果もはっきりしないから
- ◇企業の規模や経営状況によるので一概にはいえないから
- ◇E S Gは大事なことだが、一般的にはまだ認知度が低いから

4. ESGで企業が重点的に取り組むべきと思うこと

企業へ期待することは「環境に配慮した商品・サービス・技術の提供」が81%とトップ

ESGで企業が重点的に取り組むべきと思う項目を聞いたところ、「環境に配慮した商品・サービス・技術の提供」が81%と最も高く、続いて「汚染・廃棄物を減らす取り組み」（73%）、「温暖化をはじめとする気候変動への配慮」（59%）と、E（Environment 環境）に関わる項目が上位3項目を占める。（図4）

図4 ESGで企業が重点的に取り組むべきと思うこと



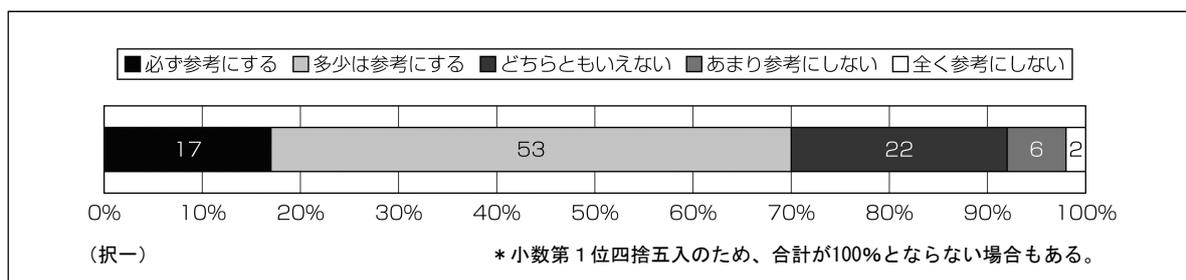
5. 企業に投資する際のESG情報

生活者の7割が、企業への投資の際にESG情報を参考にする

企業に投資（株式や社債の売買）する際、その企業が発信しているESG情報を参考にしようと思うか聞いたところ、「必ず参考にする」が17%、「多少は参考にする」が53%となり、生活者の7割が企業のESG情報を参考にすると回答している。

（図5）

図5 企業に投資する際のESG情報



「参考にする（必ず／多少は）」理由

- ◇ ESGに配慮できない企業に成長は期待できないため
- ◇ ESGは企業にとってリスクマネジメントであると認識しており、リスクを意識していない企業は一瞬にして社会から非難される存在となる可能性があるため
- ◇ ESGに積極的でない企業に対する融資や投資は行わないと表明している金融機関が増えており、今後はますますこの傾向が強くなると思うから
- ◇ 短期的な目先の利益にとらわれず持続的に発展できる会社こそが自社の企業価値を高められるのであり、結果としてそのような企業からしか投資リターンは得られないと考えるため
- ◇ 社会的責任を果たしている企業へ優先して投資したいと思うから

「参考にしない（あまり／全く）」理由

- ◇ ESGに取り組んでいることが、業績が良くなったり株価が上がったりする直接的な理由にはならないから
- ◇ ESGへの取り組みが結果として企業の財務指標に表れてくるものだとすれば、財務指標に着目すれば十分であると思うから
- ◇ 企業のESG情報を調べる手段が分からないから。また、分かっても手間がかかりそうだから

「どちらともいえない」理由

◇企業のE S G情報を調べる余裕がないから

◇企業が発信しているE S G情報が本当に投資の参考になるのかどうか判断が難しいから

以 上